

明治前期の道路

郷土史家 西羽 晃

明治になっても道路は江戸時代から大きな変更はなかった。ただ全国的に統一した名称が付けられた。明治 20（1887）年度の『三重県統計書』には桑名近辺の道路は下記のようなのである。

国道 東海道 愛知県—押付（現桑名市長島町）—桑名—四日市—滋賀県  
愛知県前ヶ須（現弥富市）から船で木曾川、鰻江川を通り、長良  
揖斐川を経て、桑名の川口町（七里の渡し場）に着いて、あとは  
江戸時代の東海道そのままである。



長島下町にある道標（明治 15 年建立）



西鍋屋町にある道標（明治 20 年建立）

「前ヶ須 津島 宮 名古屋道 左 くはなみち」 「左 東海道 渡船場道 右 西京 伊勢道」

仮定県道 美濃街道 桑名—柚井—岐阜県

桑名—三崎通—今片町—堤原—福島—深谷部—下野代—肱江  
—戸津—柚井—岐阜県。 但し、桑名での起点は明治 33 年度  
の『桑名郡統計書』によれば「桑名町大字京町ニテ東海道ヨ  
リ分岐シ」とある。京町から京橋を渡り、寺町—今片町とな  
ったようだ。

里道 濃州道 桑名一員弁郡古田一岐阜県

桑名一馬道一上野一西別所一蓮花寺一額田一星川一芳ヶ崎一五反田一筑紫（現東員町）。桑名での起点は明治 33 年度の『桑名郡統計書』によれば「桑名町大字鍛冶町ニテ東海道ヨリ分岐シ」とある。しかし大正 4（1915）年発行の『員弁郡郷土資料』では「桑名町大字寺町ニテ美濃街道ヨリ分岐シ」とあり、京橋を渡った寺町が起点だったようだ。

前ヶ須道 桑名一長島一前ヶ須（前掲 長島下町道標）

坂井道 額田一員弁郡南大社一新町（現いなべ市）一滋賀県

美濃道 員弁郡楚原一古野一柚井にて美濃街道に接続

主な橋梁（明治 20 年の『三重県統計書』に記載されている橋は

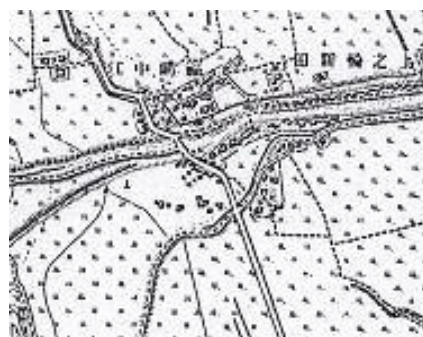
町屋橋 東海道の橋で、明治 8 年架設とあるが実際は 7 年架替の木橋

沢南橋 福島で大山田川に架かる木橋で明治 19 年架設

多度橋 戸津で多度川に架かる木橋で明治 19 年架設



明治 22 年の地図にある桑部橋



明治 22 年の地図にある沢南橋

なお、『三重県統計書』に記載されていないが、明治 13 年に桑部橋（『桑名郡志』）、明治 14 年に肱江橋が架け替えられているようだ（『多度町史資料編 3』）。